

# 佐賀市 成長可能性都市分析 (概要)

## 本調査の目的

- 既存政策（総合計画・総合戦略等）の現状分析
- ランキングにおける佐賀市の強み、弱み、特徴、他都市との比較分析
- 市の政策と成長可能性指標の関連付け
- 政策の方向性、重点的に取り組む政策の提言



- 総合計画の中間見直し、総合戦略の改訂に反映
- 強みを活かし、弱みを踏まえた事業の立案・実施

# 全政策分野における進捗率

- 平成31年度の目標値に対して、進捗率が100%以上となっているのは、「水産業」、「多様な産業・企業育成」、「防犯・安全対策」、「公共交通」、「都市のコンパクト化」、「居住・定住環境」、「障がい者福祉」、「低炭素社会」、「教育環境」、「人権尊重」、「男女共同参画」、「財政」である。
- 一方、特に進捗度が低い政策分野は「林業」、「企業誘致」、「市街地の賑わい」、「認知度・ブランドイメージ」、「情報共有」である

大分類	中分類	小分類	進捗率	
			対29年度目標値	対31年度目標値
地域資源を活かした多様な産業の展開	各種産業の振興	観光	118%	92%
		商工業	96%	94%
		農業	95%	95%
		林業	81%	78%
		水産業	122%	119%
		農林水産業成長産業化	111%	70%
	安定した雇用の創出	企業誘致	41%	27%
		多様な産業・企業育成	171%	106%
	賑わいの創出	市街地の賑わい	64%	59%
		防災・危機管理対策	94%	88%
都市の利便性と安全性の向上	安心・安全性の向上	河川管理	96%	95%
		防犯・安全対策	130%	105%
	利便性の向上	土地利用	97%	93%
		公共交通	109%	107%
居住・定住環境の向上	道路交通	道路交通	97%	95%
		都市のコンパクト化	126%	120%
	居住環境	居住環境	101%	101%
		定住環境	171%	129%
自立した生活の提供	福祉の充実	地域福祉	85%	82%
		高齢者福祉	101%	98%
		障がい者福祉	118%	115%
	生活福祉	101%	98%	
健康づくりの促進	保険・医療	95%	93%	

大分類	中分類	小分類	進捗率		
			対29年度目標値	対31年度目標値	
自然との共生	環境保全の促進	低炭素社会	103%	102%	
		循環型社会	99%	97%	
	生活環境の向上	生活環境	98%	87%	
		景観	102%	93%	
都市の魅力向上	子育て・教育環境の向上	子育て環境	96%	85%	
		就学前教育	94%	93%	
		教育環境	132%	126%	
	学習環境の充実	生涯学習	83%	80%	
		スポーツ	90%	87%	
	スポーツ・文化振興	文化	81%	77%	
		市内への人の流れの創出	市内就職	100%	86%
	互いを尊重し共に創るまちの実現	参加と協働	認知度・ブランドイメージ	55%	54%
			参加と協働	83%	81%
		情報共有	情報共有	70%	69%
効果的・効率的な行政経営の実現	人権尊重	人権尊重	114%	108%	
		男女共同参画	152%	146%	
	行政経営	行政経営	85%	82%	
		財政	140%	136%	
人材育成	職員資質	84%	80%		
議会活動支援	議会活動	96%	92%		

# 全政策分野における進捗率 ■政策の基本方向①

分野名	進捗率		結果 (代表指標)	考察
	対29年度目標	対31年度目標		
観光	118%	92%	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光入込客数増加（日帰り・宿泊）</li> <li>市内外国人宿泊者数増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2016年10月にバルーンミュージアムが開館され、2017年7月に来館者数が10万人を突破</li> <li>外国人観光客向けの佐賀市プロモーション動画が2017年9月時点で約960万回再生と話題に</li> <li>2017年3月に佐賀ーソウル便の増便、6月に佐賀空港への台北便の就航開始で台湾・韓国の観光客が増加</li> </ul>
商工業	96%	94%	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間商品販売額（商業）減少</li> <li>年間製造品出荷額等（工業）微増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業の事業所数・従業員数の減少が年間商品販売額の低下を招いている（経済産業省「商業統計調査」） （事業所数：3,570（H19）→3,194（H26） 従業員数：24,397（H19）→23,822（H26））</li> </ul>
農業	95%	95%	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業産出額減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農家戸数、農家従事者数が減少し、その影響で農業産出額が低下（農林業センサス） （農家戸数：3,426（H22）→2,545（H27） 農業従事者数：4,823（H22）→3,972（H27））</li> </ul>
林業	81%	78%	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材生産額（素材生産額）増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材価格の低下や後継者不足に伴い、人工林の適切な維持管理が不十分</li> </ul>
水産業	122%	119%	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁業生産額大幅増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁業生産額の99%を占める海苔の消費拡大のため、帰省客や市内幼稚園・保育園への海苔配布やのり名刺プロジェクト等、PR活動を行っている</li> </ul>
農林水産業の成長産業化	111%	70%	<ul style="list-style-type: none"> <li>農林水産業新規就業者数増加</li> <li>法人化集落営農組織数増加</li> <li>ICT技術導入農家戸数増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年度より、新規就業者を育成する研修施設「佐賀市トレーニングファーム」を富士町に設置</li> <li>2017年、法人化した集落営農組織で連帯を深めることを目的に「佐賀市農業法人連絡協議会」が発足</li> <li>イノシシによる被害額減少のためのNTTPCの鳥獣被害監視装置「みまわり楽太郎」の導入</li> </ul>
企業誘致	41%	27%	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業誘致による新規雇用者数微増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度の進出協定は5社（佐賀冷凍食品（株）、黒田木材商事、（株）Faber Company、（株）キョーダ「マーケティング」研究所、（株）三宝化学研究所（未採業））</li> </ul>
多様な産業・企業育成	171%	106%	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域金融機関と行政が連携した支援による創業件数増加</li> <li>新たな商品開発数増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年、創業予定者や創業して間もない方を対象とした佐賀市創業支援セミナーを実施する等創業希望者の掘り起こしと継続的な支援を実施</li> <li>佐賀市が毎年実施している商談会により、新規商品開発に取組む事業者が増加（2017年度商談会には県内26社が参加）</li> </ul>
市街地の賑わい	64%	59%	<ul style="list-style-type: none"> <li>主要商店街通行量（年間4日間12箇所計測）減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地には空き店舗や空地の間口率が高く、老朽化しているビルが更新されないまま多数存在している</li> <li>「佐賀市中央通り再生計画」を平成27年に策定しているが、現状通行量増加にはつながらっていない</li> </ul>

# 成長可能性都市ランキングについて

- 「成長可能性都市ランキング」は、地方都市の産業創発力を可視化する目的で作成した。産業基盤や企業誘致に限らず、「新規産業の創出（イノベーション）」や「将来のポテンシャル」も評価の対象としている。
- 統計データだけでなく、各都市の住民を対象とするウェブアンケートを実施し、情緒的な要素（他者への寛容度等）も指標化し、評価指標に含めている。
- これらの分析によって、各都市の「強み」「弱み」や特徴を可視化することを目的としている。
- 対象として、都市雇用圏の人口規模及びウェブアンケートの回収可能性を考慮して100都市を選定した。

分析対象とした100都市

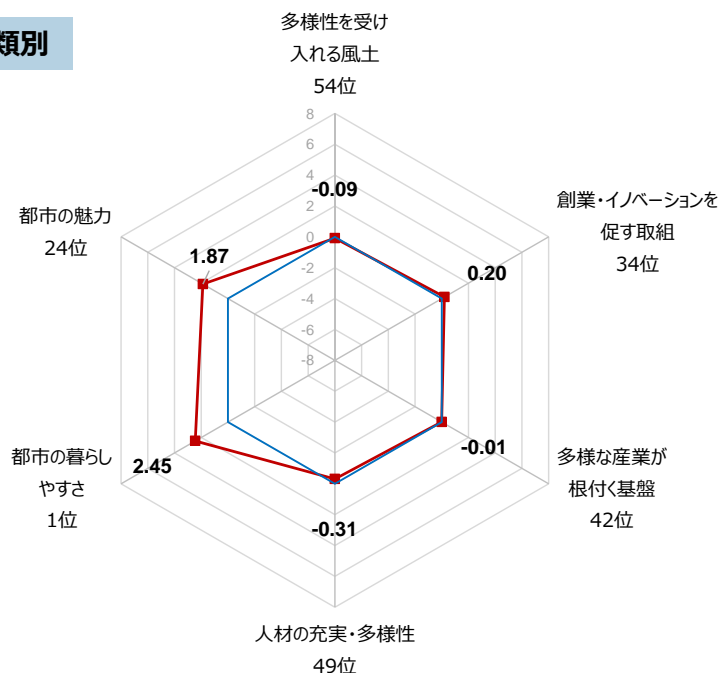
北海道	札幌市	栃木県	栃木市	静岡県	浜松市	岡山県	岡山市
	函館市		小山市		沼津市		広島県
青森県	旭川市	群馬県	前橋市	愛知県	名古屋市	山口県	下関市
	釧路市		高崎市		豊橋市		宇部市
	帯広市	伊勢崎市	岡崎市	山口市			
	北見市	太田市	半田市	周南市			
	苫小牧市	さいたま市	刈谷市	徳島県	徳島市		
	千歳市	千葉県	豊田市	香川県	高松市		
	八戸市	東京都	安城市	愛媛県	松山市		
岩手県	盛岡市	東京都	東京特別区	三重県	津市	高知県	高知市
	仙台市		神奈川県		横浜市		四日市市
宮城県	石巻市	新潟県	小田原市	滋賀県	大津市	福岡県	福岡市
	仙台市		新潟市		伊勢市		京都府
秋田県	秋田市	富山県	富山市	大阪府	大阪市	佐賀県	佐賀市
	山形県		山形市		高岡市		兵庫県
福島県	福島市	石川県	金沢市	和歌山県	和歌山市	熊本県	熊本市
	会津若松市		福井県		福井市		鳥取県
	郡山市	山梨県	甲府市	奈良県	奈良市	宮崎県	宮崎市
いわき市	長野県	長野市	和歌山県		和歌山市		鹿児島県
茨城県	水戸市	岐阜県	松本市	島根県	松江市	沖縄県	那覇市
	日立市		上田市		出雲市		
栃木県	宇都宮市	静岡県	静岡市				

- 都市雇用圏の人口規模及びウェブアンケートの回収可能性を考慮して100都市を選定。（なお、東京は1都3県にまたがる都市雇用圏となっているが、各県を代表する都市として横浜市・千葉市・さいたま市を追加した。）
- 指標算出のために実施したウェブアンケートの実施概要（実施時期：2017年2月、配信対象：各都市に居住する20～59歳の男女、回収数：東京は300、横浜市・名古屋市・大阪市は200、その他は100）

4

## 指標の組合せによる強みと弱み、特徴の整理

### 評価視点 大分類別



5

# 近隣市、類似市の抽出および比較分析

## ■比較パターン① 近隣(九州)

比較対象		佐賀市の優れた点	佐賀市の課題となる点
都道府県	市区町村		
佐賀県	佐賀市	<p><b>都市の暮らしやすさの視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>九州10都市の中で最も評価が高い。</li> <li>特に、特に都市環境の良さ(安心安全、景観等)や生活コストの安さでは、100都市の中でも評価が高い</li> </ul> <p><b>都市の魅力の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に、地域コミュニティが成熟している。絆の強さ、共助精神などの点で評価</li> </ul> <p><b>ビジネス環境の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低廉なビジネスコストでは、九州でトップ</li> </ul> <p><b>人材・労働力の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人材の充実・多様性の視点では、労働力や若年層が比較的充実している点の特徴。</li> <li>特に、若者や女性の活躍という観点では佐賀市の評価は高い。</li> </ul>	<p><b>多様性への寛容度の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様性への寛容度が低く、多様な生き方の許容や多様な背景を持つ人への寛容さが乏しい。</li> </ul> <p><b>創業・イノベーションの視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>創業に関する取組や制度については、他都市と大きな差はないが、創業の実績の面においては、他都市よりも低くなっている。</li> <li>創業の機運が高まりにくい雰囲気がある</li> </ul> <p><b>海外とのつながりの視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>佐賀市は海外人材が集積が進んでおらず、海外とのつながりが福岡県内の都市と比べ希薄。</li> </ul> <p><b>社会の活力、幸福感の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>佐賀市は活気ある雰囲気を感じていない市民が多く、九州内で唯一、100都市平均を下回っている。</li> <li>幸福感や街への誇りも九州10都市で最低で、市民が地域をネガティブに捉えている可能性がある。</li> </ul>
福岡県	北九州市		
福岡県	福岡市		
福岡県	久留米市		
長崎県	長崎市		
長崎県	佐世保市		
熊本県	熊本市		
大分県	大分市		
宮崎県	宮崎市		
鹿児島県	鹿児島市		

6

# 近隣市、類似市の抽出および比較分析

## ■比較パターン② 類似(人口規模)

比較対象			佐賀市の優れた点	佐賀市の課題となる点
都道府県	市区町村	人口(人)		
佐賀県	佐賀市	236,372	<p><b>都市の暮らしやすさの視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の利便性、生活コストの安さでは佐賀市が最もスコアが高い。</li> <li>都市環境の良さでは松本が最もスコアが高い。</li> <li>佐賀市と松本市は暮らしやすさ、都市環境の良さが秀でていているという点で、性質が近い。</li> </ul> <p><b>都市の魅力の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>佐賀市は都市の魅力が他都市より高いが、松本市がそれを上回っている。</li> <li>地域コミュニティの成熟、共助精神では松本市が佐賀市を上回った。</li> </ul> <p><b>ビジネス環境の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネス環境で佐賀市がビジネスコストの安さで優位であるが、コスト面のみならば八戸市がより低廉となる。</li> <li>松本市は、交通利便性の観点でスコアが低く、ビジネス環境の点では佐賀市が優位。</li> </ul> <p><b>人材・労働力の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若者・女性の活躍では佐賀市が優れている。</li> </ul>	<p><b>全般的な傾向</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5都市の中では、佐賀市はつくば市、松本市に次ぐ3番目に位置付くことが多い。</li> </ul> <p><b>多様性への寛容度の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様性への寛容度ではつくば市、松本市がスコアが高い。</li> </ul> <p><b>創業・イノベーションの視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つくば市、松本市、八戸市は創業を促す風土で高いスコアとなっている。</li> <li>創業実績は5都市間で大きな差はなく、いずれも100都市平均を下回っている。</li> </ul> <p><b>人材・労働力の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育の充実度では、つくば市が突出しており、他都市は同程度である。</li> <li>松本市は移住者など外部人材の受入に積極的であり、受入体制のスコアは佐賀市より高い。</li> </ul> <p><b>社会の活力、幸福度の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会の活力、幸福感では、つくば市、松本市が高く、他都市はいずれも低い</li> </ul>
青森県	八戸市	231,257		
茨城県	つくば市	226,963		
長野県	松本市	243,293		
静岡県	富士市	248,399		
広島県	呉市	228,552		

7

# 近隣市、類似市の抽出および比較分析

## ■比較パターン③ 東京からのアクセス時間

比較対象		佐賀市の優れた点	佐賀市の課題となる点
都道府県	市区町村	<p><b>暮らしやすさ、都市の魅力の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>佐賀市は日常生活の利便性、低廉な生活コストでは他都市より優位性がある。</li> <li>地域の共助精神・コミュニティの成熟、歴史・伝統との触れ合いでも優れており、暮らしやすさの観点からは、優位性があると言える。</li> </ul> <p><b>人材・労働力の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>佐賀市は今後人口は減少するものの、この8都市と比べ減少幅は小さい</li> </ul>	<p><b>移住しやすさの視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>移住者など市外の人の受入れやすさを示す、「多様なライフスタイルの許容度」は松山市、高知市、高松市、帯広市が高い。</li> <li>同様に「多様な人への寛容度」では高知市、高松市が高い。</li> <li>佐賀市はいずれも高いとは言えず、移住者を呼び込みやすい環境が整っているとは言えない。</li> </ul> <p><b>産業の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主要企業の存在や起業の実績では、佐賀市を含めどの都市も優れているとは言えない。</li> <li>佐賀市は低廉なビジネスコストの面で他都市より優位である他、人口・労働力の充実、若者・女性の活躍など、人材が集積している点では他都市より多少優位性があると考えられる。</li> </ul>
佐賀県	佐賀市		
北海道	帯広市		
	旭川市		
	釧路市		
	函館市		
香川県	高松市		
愛媛県	松山市		
徳島県	徳島市		
高知県	高知市		

8

# 政策の方向性、重点的に取り組む政策の提言

## ■佐賀市の得意領域と課題

<p><b>【魅力】</b> 暮らしやすさ・ 魅力の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>佐賀市の生活利便性は大都市と差がない一方で、居住の快適性や都市環境の良さ（安心安全、景観等）や生活コストの安さでは、他都市より優れている</li> <li>女性の活躍や出生率など、子育て自体のしやすさに加え、都市の環境や治安の良さ、生活コストの安さなどの子育てをする上で重要となる要素を持っている。</li> <li>他都市と差別化する要素として、暮らしやすさ（環境の良さ、生活コストの安さ）、コミュニティの絆の強さを活かし、そうした環境が必要な人（子育て世代、高齢者、障害者など）にとっては魅力的な都市にしていくことが期待される。</li> </ul>
<p><b>【魅力】</b> 人口の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働力や若年層が比較的充実しており、若者や女性の活躍という観点で評価は高い。</li> <li>福岡市などの大都市に勤務する人が住まいを設けたり、大都市に居住する人より暮らしやすい環境を求める人がUIターン等を行う際の受け皿となるなど、他都市からの人口移動を受け入れる側となることも考えられる。</li> <li>佐賀駅から主要都市まで30分～1時間程度とアクセス性は良好であり、他都市に勤務する人をさらに呼び込むことも可能と考えられる。</li> </ul>
<p><b>【課題】</b> 産業の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他都市と比較して主要企業の存在、独自の産業、起業などいずれも乏しい</li> <li>こうした点を直接的に克服するよりも、上記の視点から人の呼び込みに特化した政策を行い、多様な人材の集積を図ることによって、起業や独自の産業を勃興させていく流れが適していると考えられる。</li> </ul>

9